

研修医・各科医師の救急研修、救急医の Sub speciality 研修の実践

兵庫県災害医療センター・神戸赤十字病院 整形外科 副部長

○^{やがた}矢形 幸久、^{ゆきひさ}小澤 修一、中山 伸一

神戸赤十字病院および兵庫県災害医療センターは同一敷地内に立地しながら、それぞれが個別に独立した病院機能を有する、稀な形態の医療機関複合体であり、相互補完的に医療活動を行っている。神戸赤十字病院は1次、2次救急を担当し、総合病院として急性・慢性疾患のいずれにも対応する。一方、兵庫県災害医療センターは兵庫県内唯一の高度救命救急センターであり、原則3次救急のみに対応する。神戸赤十字病院の専門医の協力も得るが、ほぼ自己完結型の、外傷診療システムに秀でた救命救急センターである。また、日本に2カ所ある DMAT 研修施設の一つでもあり、国内外を問わず災害発生時にはいち早く活動する機動性を持っているのが特徴である。この形態のため、神戸赤十字病院には重症外傷や院外心肺停止症例は搬入されず、初期臨床研修医は JATEC や ICLS に準じた救急診療を経験できない。よって初期研修期間中に2ヶ月もしくはそれ以上の期間の兵庫県災害医療センターでの救急研修を必須とし、標準レベル以上の重症症例に特化した救急診療システムと集中治療を学ぶ。また、神戸赤十字病院の専門科医師も希望すれば救急研修が可能である。これに対して兵庫県災害医療センターは独自で初期臨床研修医を受け入れることはできず、救急医としての後期研修医を受け入れている。彼らの多くは最終的には救急医として歩むことを希望せず、専門科に進むことが多い。また、救急医の道を進むことを望む場合であっても、Subspeciality を持つことは有用であり、推奨している。このため進路の希望が専門科、救急科のいかんにかかわらず、希望者には3年間の後期研修期間中に神戸赤十字病院の専門診療科での研修を認めている。そして、Subspeciality を有する救急部スタッフ医師は、救急部在籍期間を専門科のキャリアにおける空白にすることがないように、複数の診療科（外科、麻酔科、整形外科、循環器内科など）については各学会の研修指定施設認定を受けている。また、彼らにもその技能維持・向上や、キャリアアップを目的に神戸赤十字病院での専門診療科研修が認められている。このように、全国に類を見ない体制を持つ2施設が、医療活動のみならず人材育成についても相互補完している。さらに言えば、兵庫県災害医療センターは、外部からの短期研修希望者や中長期専従希望者に対しても、広く門戸を開放している。救命救急センターを有する全国のほとんどの赤十字病院が ER 型救急であるのに対し、このセンターは全国でも稀な3次単独の独立型・自己完結型高度救命救急センターであり、全国の赤十字病院グループの先生方には、人的交流研修として重症症例に特化した救急診療および集中治療や、集団災害対応の研修に大いに活用いただけたと考えている。

SY I -02

次世代の人材育成 —BSC を活用した人材育成について—

松山赤十字病院 教育研修推進室副室長 看護副部長

○^{たけだ}竹田 ^{きくえ}喜久恵

病院を取り巻く環境が激変し、過去の延長線上で未来を予測することが困難な時代、専門知識は勿論のこと、これからは高い倫理観や、物事の本質を見極め、将来を見通す力、そして困難な状況に立ち向かう強い意志を兼ね備えた人材が重要になる。

教育研修推進室は、全職員を対象とした教育および支援体制を整備し、安全で良質な医療を提供できる能力を備え、加えて国内外における救急・救護活動に貢献できる職員の育成を目的として平成19年8月に設置された。開設当時は研修医の支援を中心に行っていた。BSC 導入後「多職種協働」が一つのキーワードとなり、全職種を対象としたキャリアデザインを明確にし、現在まで様々な取り組みを行っている。BSC が人材育成の体制づくりにどのような効果をもたらしたか、当院における BSC の活用と教育研修推進室の取り組みを紹介する。

当院は、平成18年度から BSC を導入している。BSC を導入してよかったのは「戦略の見える化」であった。「見えるから考える、考えるから変えることができる」ということである。BSC による「見える化」が組織内コミュニケーションの重要なツールになっている。BSC は、病院という多くの専門職が集まった組織において、特に協働を促進するための戦略コミュニケーションツールとして効果的であると考えている。

教育研修推進室は人材育成の体制づくりにおいて、今年度何に取り組みたいか、どこまで持っていきたいかを、BSC を活用しながら戦略的目標と重要成功要因、指標、目標値、行動計画に落とし込んで全職員に発信してきた。平成18年度「教育研修体制の充実」、平成24年度「専門医療人、赤十字人の育成」平成27年度「医療人に選ばれる病院、地域医療を支える人材育成」を戦略目標に挙げ行動計画に移していった。

次世代を担う人材育成について、当院はやっとよちよち歩きを始めたところである。組織としてどのように取り組んでいけばよいか一緒に考え、皆さんのご意見を参考に今後も様々なことに挑戦していきたい。